

# 東京格致会会報

## 会報発刊に当たって

東京格致会会長

細川謙三

今度、東京格致会の皆さんが会報を出そうという申し合わせをされた。もとより私は賛成だが、その編集事務にたずさわる方がたの苦勞は大変である。どうか皆さんが協力され、よい会報が出来、格致出身者の団結と親睦が益ます深まることを祈ってやまない次第である。

私は思いがけないめぐり合わせで、数年来現在のような立場に立たされて来たが、この会は本来、格致出身者の親睦交流を図るのが目的であって、誰でも気楽に集まって、肩肘はらずに話し合うのがよいのだと思って来た。会報を出そうという動議が嘗つて出されたことがあったが、財政の見透しが立たず立ち消えになってしまっていたのを、若い方がたが足を運んでいくらかの財政的基礎をつくった上でこの度のこのような運びになったことは素晴らしいことだと思う。これを機会に、格致の出身者の交流が深まり、お互いにより広い視野をもって益々社会的に活動されることを祈ってやまない。

私たちの学んだ格致の所在地比婆郡は嘗ては広島縣のチベットと言われて来た、しかし、日本が世界の重要な一極を占めるようになった現在では、もはや、そのような古い概念は脱ぎすてねばなるまい。中国地方の最高地を占める比婆郡は世界の趨勢を眺めて知るのに最適の地なのかも知れない、視野を広くもってお互に活躍したいものである。

(平成五年五月一日)

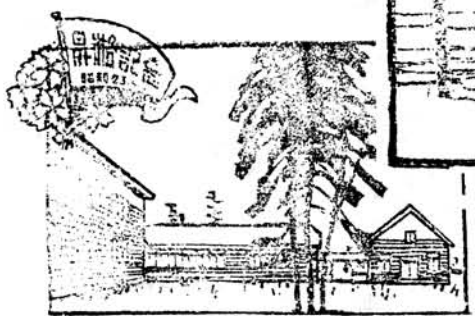
### 記念品紹介

#### 松原原頭の印象

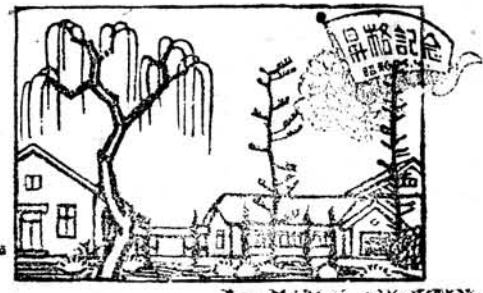
“三本松” “柳” とともに……

高野美代子  
(昭和26年卒)

今夏8月に庄原を訪れ、なつかしい母校へも立ち寄りました。新しい校舎が立ち並び、道路が変わっていて、あの松原の跡は数本の赤松があるのみ……時代の変化を感じました。(昨年総会返信より)



### 八谷先生の版画



昭和23年4月、“格致高等学校”昇格記念に取り扱われた私製葉書です。

(終戦後の物資不足の中、粗末な画用紙に刷られたもので、大切な記念品です。)

第 1 号

1993年9月

発行人・細川謙三  
編集人・横山鶴雄  
友広 寿

東京格致会の歩み

設立準備

\*昭和54年度より、東京格致同窓会の準備にむけて名簿の整理を始める役員会は大同信用金庫顧問弁護士・後藤獅湊氏の勤務先で行う。

総会および懇親会

第一回 昭和57年11月24日  
於大同信用金庫会議室

三上英雄会長、後藤獅湊事務局長  
伊達正治校長、滝口牧三郎先生、  
荒木政幸同窓会長、岸義次郎副会長、他50名参加

第二回 昭和59年6月8日  
於中野サンプラザ

上原弘衛会長、渡辺泰行事務局長、  
樋口彰校長、荒木政幸同窓会長、  
他66名参加

第三回 昭和60年7月5日  
於中野サンプラザ

上原弘衛会長、渡辺泰行事務局長、  
樋口彰校長、山本和夫先生、三上  
英子、他65名参加

第四回 昭和61年6月27日  
於中野サンプラザ

上原弘衛会長、渡辺泰行事務局長、

樋口彰校長、荒木政幸同窓会長、  
他54名参加

第五回 昭和62年10月16日  
於中野サンプラザ

上原弘衛会長、渡辺泰行事務局長、  
三上英子、可部理弘先生・学生6  
名、他51名参加

第六回 昭和63年10月28日  
於山水楼

細川謙三会長、坂井昌彦事務局長、  
後藤哲夫校長、他33名参加

東京格致会の歩み

第一回講師派遣(平成2年4月20日)

「あなたが社会に出る

ころの日本と世界」

藤 高 明 (昭27卒)

第二回講師派遣(平成3年4月19日)

「わが青春に悔いなし」

市 岡 四 象 (昭25卒)

第三回講師派遣(平成4年4月24日)

「サッカーと私」

風 呂 田 哲 正 (昭27卒)

「高校生活を如何に過すか」

国 原 昭 造 (昭27卒)

東京格致会のあゆみ

(編集委員)

古い資料の中に『庄原高等学校・京浜支部同窓会名簿』(昭和三十五年十二月現在)というのがある。これによると格致学院・格致中学校・庄原実業学校・格致高校・比婆西高校の卒業生と旧職員が会員となっている。

当時の会長は三上英雄氏である。その後、紆余曲折があつて現在のようになつたのは昭和五十七年で、当時大同信用金庫顧問弁護士をしておられた後藤獅湊氏を中心にして昭和五十四年頃から新名簿づくりが始まつた。

表にあるように新体制による第一回総会が開かれたのが昭和五十七年である。上原弘衛氏を新会長に、細川謙三・後藤獅湊両氏を副会長、佐近虎夫(幹事長)、平田耕司(副幹事長)、渡辺泰行(事務局長)の布陣でスタートした。

残念なことに、この十数年のうちに、上原会長、後藤副会長、佐近幹事長、渡辺事務局長が次々と逝去され、平田氏も副会長就任間もなく広島へ帰任されて、昭和六十三年以降、がらりと編成替えをして現在のようになった。

会長||細川謙三(昭16)、副会長||新見義明(昭23)、坂井昌彦(昭24)、市岡四象(昭25)、幹事長||横山鶴雄(昭25)、事務局長||友広寿(昭27)、副幹事長||風呂田哲生(昭27)、事務局長補佐||加藤哲治(昭32)。

監事は引き続き、酒井久幸・室伏孝一(昭25)の両氏。会員の親睦交流をさらに積極的にするために年会費・運営基金の設定で財政基盤をかため、会報の定期発行、名簿の増補改訂、行事計画を進めている。(運営基金)への御芳志は予想以上で、常任幹事会一同心より御礼申し上げます。

なお、本文の資料は、坂井昌彦、加藤哲治両氏から提供していただきました。

趣意書

『：拳頭望山月、低頭思故郷（李白）』：大都會の喧騒と孤独の中で、ふと我に返って思うことは、やはり父母のことであり故郷のことでしょう。年一回の総会懇親パーティで飛び交う、あの懐かしい、北方広島弁のイントネーションは日頃の緊張を解きほぐし、しばし故郷に連れ戻してくれま

す。青雲の志を胸に出郷して幾星霜——日本の心臓部東京の厳しい現実の中で孤軍奮闘しておられる同窓の先輩朋友に、熱い共感を覚えるとともに、さらなる連帯を期待しております。

東京格致会は、先年亡くなられた上原弘衛（会長）、後藤彌彦（副会長）、佐近虎夫（幹事長、渡辺泰行（幹事長）ら諸先輩の御尽力で、昭和五十七年一月、現在体制が確立し運営され、年一回の総会も今や途切れることなく開催されております。

本会は「不偏不党」、常に自由な立場で発言行動し、お互いの研鑽に励みながら同窓の絆を強め助け合おうということを目指しておりますが、現在当面している大きなネックは、「運営資金」です。

運営資金面では、これまで武家の商法と申しましようか、理想は高いのですが、金銭感覚にやや疎い面があり、理想と現実のギャップが埋まらず難航を続けております。

なにしろ「会費ゼロ」「手持ち資金ゼロ」、運営・活動は全て役員諸氏の手弁当・ボランティアという前近代的经营を誇っており、今日まで実質収入のすべてが年一回の総会参加会費の一部と有志からの不時の寄付だけでやりくりしてまいりました。

今般、この現状を改革して活性化するため執行部をがらり若返らせて、積極的活動に取組み魅力ある同窓会運営にすることを決議いたしました。是非とも御賛同うえ、御協力、御援助をお願い申し上げます。

第一弾として、「東京格致会運営基金」（仮称・TKファンド）の設定です。

全体予算計画等の概要は後述致しますが、第一線事業で御活躍中の諸先輩方に、いわば、無償の株主」という形で、後に続く者たちへ暖かい投資をしていただきたいのです。一口一万円、締切りは設けず随時積み立てしていく方式です。お預かりした貴重な基金は二名の監査幹事の監督のもとで常任幹事会が、事業計画に基づき管理運用いたします。予算計画と事業計画の概要は左記の通りです。

御意見や御要望などございましたら、執行部（常任幹事会）までお寄せください。

記

- 一、「年会費」制度を設定。年間二千元、一括払い。（支払い方法は検討中）
- 二、「運営基金」寄付のお願い。一口一万円で受け付けは随時、執行部メンバーでお願いに参上いたします。（会報でご芳名を公表）
- 三、総会は一回開催。（母校より校長・職員・同窓会会長他の招待、懇親パーティ）
- 四、会報の発行。（当初年一回）
- 五、会員名簿の整備改訂作業。
- 六、母校への講師（在京の卒業生）派遣。（過去三年間連続実施して好評）
- 七、その他、会員の要望、常任幹事会の検討で適宜事業を実施。

以上、東京格致会の現在及び今後の活動・展望のアウトラインでございます。よろしく御査察の上、御指導、御援助をお願い申し上げます。

一九九二年師走

東京格致会会長 細川 謙三  
常任幹事一同

（基金出資者）	
番号	氏名
1	田部 幸雄
2	長井 一美
3	細川 謙三
4	塚本 幸三
5	沼越 達也
6	新見 義和
7	新見 義明
8	小島 芳元
9	坂井 昌彦
10	小林 末雄
11	金森 裕雄
12	横山 鶴雄
13	室伏 孝一
14	酒井 久幸
年卒	番号
15	10
16	15
17	16
18	17
19	18
20	19
21	20
22	21
23	22
24	23
25	24
26	25
27	26
氏名	年卒
風呂田 哲生	27
国原 昭造	27
友広 寿	27
近藤 正明	28
兼利 卓蔵	28
柴 敏男	28
明賀 馨	29
加藤 哲治	30
宗国 旨英	32
谷岡 操	32
横山 弘佳	35
新宅 二三	35
田端 康雄	43

（平成五年九月十日現在）



東京格致会平成四年定例総会記念写真（H4.10.2 於. 青学会館）

- |           |                  |       |       |   |
|-----------|------------------|-------|-------|---|
| 森山守田世細末坂新 | 酒風横金松住友加新藤兼八国    | 小明福積中 | 滑佐白   | 井 |
| 田内長部良川信井見 | 井呂山森島本広藤宅岡利谷原    | 島賀島山田 | 喜近根   | 上 |
| 深洋和幸英謙丈昌義 | 久哲鶴裕 康 哲 一 卓 英 昭 | 芳 正 弘 | 八 萬 晴 | 隆 |
| 雪子子雄成三夫彦明 | 幸生雄雄斎郎寿治         | 元馨徳佳毅 | 郎之暉   | 行 |
- （下段） （中段） （上段）

「母校便り」

ごあいさつ

広島県立庄原格致高等学校長

世良英成



昨年は、末信教諭と私を東京格致会へご招待いただきありがとうございます。ここからお礼申しあげます。

さて、先日歴代の校長経験者である加藤朗一（昭三七～四〇）、奥出政清（昭四〇～四三）、高森新三（昭五〇～五三）、伊達正治（昭五三～五七）、後藤哲夫（昭六三～平四）先生等一六名の管理職経験者が来校されました。その時談笑しながら、昔話に花を咲かせ、懐かしい日々を思い出されていました。先生方の話を拝聴しながら、時代の流れ、時代の変化はありますが、「格物致知」の精神は受け継がれていると確信いたしました。現在、本校では体育館が改築中であり、一階はピロティと格技場、二階が体育館になります。広さは旧体育館の約二倍（二二〇〇㎡）の広さとなります。

生徒数は減少傾向にありますが、新体育館は広くなり、ゆったりと使用でき、施設等も充実したものになります。完成は九月の予定で工事も順調に進行しています。

また、長年の懸案である第二グラウンドの件であります。学校から北の方向の根木田のたんぼの中に計画しています。ウィークデイは格致が使用し、休日は地域社会に開放するという原則で、庄原市と広島県教育委員会にこの第二グラウンド実現のための要望をしているところであります。実現の可能性は大でありまして、本校の一〇〇周年記念行事（平成九年）の頃には完成しているであります。

すでに根木田から格致へ入る二車線の道路は完成しており、ここ数年で根木田付近は全く変わってしまうであります。

昨年度の進路状況は、東北大学、九州大学を初めとして実績をあげており、よく頑張ってくれました。今年クラブ活動は陸上部のやり投げは県大会で優勝、登山部は第二位となり中国大会へ出場いたします。吹奏楽部は担当者の熱心な指導もあり久しぶりに活気があふれています。このように生徒諸君も教職員も頑張っております。ご安心ください。

最後になりましたが、東京格致会の皆様のご活躍とご健康を祈念いたしますとともに、母校への一層のご支援をお願い申し上げます。

お知らせ

一九九三年度総会の御案内

謹啓 残暑の候、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。年一度の催しであります東京格致会総会を左記により開催致しますので、万障お繰り合せのうえ、是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。準備の都合もございまして、御手数ながら九月三十日まで同封のハガキで御出欠をお知らせ下さいませお願い致します。追伸 多数の参加者でお互に有意義であったと感じる会にしたいと願っています。

平成五年九月

〒227横浜市緑区桜台九一二

東京格致会会長 細川謙三

（電話〇四五一九八一）

五八一六

一、日時 平成五年十月十六日（土）午後一時総会・一時三〇分懇親会

親会

一、場所 中野サンプラザ

（十五階 寿の間）

中野区中野四一―

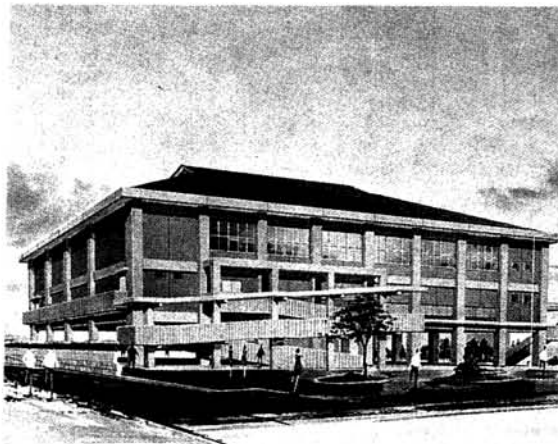
電話 三三八八一―一五一 JR中野駅北口 徒歩一分

一、会費 一〇、〇〇〇円

（但し学生は五、〇〇〇円）

過去の進路概況

年 度	大 学	短 大	専 門 学 校	就 職	そ の 他	合 計
1981 (S.56)	70	48	41	56	17	232
1982 (S.57)	53	38	34	51	12	188
1983 (S.58)	48	40	35	55	26	204
1984 (S.59)	56	34	33	45	8	176
1985 (S.60)	46	30	41	37	13	167
1986 (S.61)	58	29	41	37	10	175
1987 (S.62)	48	1	21	12	12	94
	65	23	39	32	14	173
	17	22	18	20	2	79
1988 (S.63)	34	2	10	12	15	73
	43	40	39	29	17	168
	9	38	29	17	2	95
	25	0	35	16	21	82
1989 (H.1)	46	36	55	29	14	180
	14	38	35	33	7	127
	29	0	24	15	14	97
1990 (H.2)	39	38	70	49	28	224
	17	36	31	14	0	98
	31	1	21	12	15	80
1991 (H.3)	55	28	48	26	15	172
	24	27	27	14	0	92
	44	1	15	7	17	84
1992 (H.4)	67	44	37	15	19	182
	23	43	22	8	2	98



母校よりの資料から抜粋

「課外講座・報告」

「あなたがたが社会に出る

ころの日本と世界」

第一回庄原格致高校課外講座



藤 高 明  
(朝日新聞東京本社)

講座というやつは、苦手である。職業柄、話をしてくれ、と頼まれることもあがるが、たいてい断る。新聞記者は書くのが商売なので、とか、講演するようになっちゃおしまいですが、とか格好をつけているが、要するに話が下手だ、というだけのことである。ナマリのせいもある。広島弁というか、比婆郡の言葉は接着力が強いようであるこの年になっても抜けてくれない。

格致の生徒さんたちに話してくれ、と細川会長に頼まれたとき、二つ返事で引き受けたのは、言葉の問題だけではない。四十数年振りに母校を訪れる、という魅力に抗し難かったからである。

そのとき何を話したか、まるっきり覚えていない。制服姿の生徒さんたちが、最後まで静かに聞いてくれたことだけを覚えている。私たちのころよりずいぶんお行儀がよくなった、と関心したものだ。次の日、バスで広島へ出た。バスを降りたら、大きな画板を抱えた、可愛いお

嬢さんがお辞儀をした。格致の生徒さんで、広島に絵を習いに来ているといっていた。いまだきめったにお目にかかれないう、礼儀正しいお辞儀だった。(昭和二十七年卒)

「わが青春に悔いなし」

第二回庄原格致高校課外講座



市 岡 四 象  
(東京女子医大教授)

平成三年四月十九日(金)、東京格致会後援の第二回課外講座で講演の機会を与えられ、表記の演題をもって懐かしい母校を訪れた。

格致中、高校時代のスナップ写真をスライドにして持参したが、会場の体育館に映写設備がなく公開できなかったのは残念であった。太平洋戦争末期から終戦直後の寮生活・下宿生活で、空腹を抱えながら広島大学教授らの指導で動植物の生態を知り、生きた学問をしたことなどを話し、その体験が現在の医学研究までつながっていることを強調した。郷里から巣立って行く人・地元に残る人達もこのすばらしい生活環境に誇りをもってほしいと結んだ。

感心したのは、一人として居眠りをしたり、私語を発したりする生徒がいなかったことで、熱心に聴いてくれてうれしかった。(昭和二十五年卒)

「サッカーと私」

第三回庄原格致高校課外講座



風 呂 田 哲 生  
(旭光学工業(株))

平成四年四月二十四日(金)、東京格致会後援の第三回課外講座を同高校講堂で行なった。出席者は生徒、先生、PTA関係者約六百名であった。

終戦後手作りのサッカーボールを蹴って遊んでいたのがサッカーとの出会いになった。格致高校時代もサッカー部に入り県体などに出場、強敵の舟入高校に勝ったことも憶えている。旭光学に就職し、サッカー部を創設。監督兼プレーヤーをつとめ東京リーグ一部(東京都ベストン)に昇格できた。

その後、地元の要請により高島平少年サッカークラブを創設。平成元年、十八年目にして初めて全日本少年サッカーチャンピオンズカップを手にし、全国七千チームの頂点に立つことができた。

在校生には「高校時代に一生続けられるものを見つけてほしい」と結んだ。皆熱心に静かに話を聴いてくれたこと、講演終了後退出するときに鳴り止まぬ拍手に感激した(本当は少し照れくさかった)。

その後、サッカー部員のコーチをし、懐かしい母校を後にした。(昭和二十七年卒)

「高校生活を如何に過ごすか」

第三回庄原格致高校課外講座



國 原 昭 造  
(日清製粉(株))

同期の風呂田さんと一緒に二人で一人前の気持(彼氏には失礼な言い方ですが)で母校の講壇に持時間五〇分で久振りに立ちました。

二年生の時、生徒会執行部員に立候補、演説して以来の事でした。後輩諸氏の真面目な顔を見た時、演題は適切であったと直感、一人でも多くの男女生徒さんに理解し共鳴して貰える様子に誠意を込めて必死に話しました。

私が勉強し体験し反省したいわば私の人生観の集大成的な内容で私の人生哲学を語りたかったのではないかと今は思っております。

多少はあがったりして全ては話し切れませんでした。校長先生をはじめ諸先生や後輩諸氏・聴講頂いたPTAの方々、それに私を派遣して頂いた東京格致会の皆様に改めて深く感謝を申し上げる次第です。

講演後、校庭にてソフトテニス指導も短時間やらせて頂き、青春を満喫でき、郷里での良き一日でした。(昭和二十七年卒)

「会員随想」

力ラオケ

新見 義明

(昭和二十四年卒)

音痴だと思ひ込んで、宴席での一曲を拒み続けて来たのだが、札幌時代のある時、訪ねてきた兄の歌を聞いて、あれよりはうまいはずだと思ったのが運の尽き。やってみるとなかなか面白い。最近では車の中にテープを持ち込んで練習に励んでいる。

それほど悪くはないと思うのだが、うちでやるのは御法度。「祐ちゃん(娘)が、『恥ずかしくて、ご近所を歩けない』と言ってますよ」と女房の言。これには弱い。

こん畜生！ とばかり難曲に挑戦。長淵剛の「とんぼ」に内緒で取り組んだ。妻の誕生日に「お祝いに一曲」と宣言したから、向こうも「いや」とは言えない。「シメシメ」とばかり早速とりかかった。ウーウウウウウウウウウウ。すると、わが愛犬パム(ミニダックスフンド)が「ウー、ウー」とブルブルふるえ出したではないか。「お父さん、大変！ パムが神経衰弱になっちゃう。早く外を一回りしてきて」。これは一大事。五分ばかり抱いて歩いて、帰ってみると、はやテープレコーダーはしまい込まれていた。

近況

木倉 圭一

(昭和二十八年卒)

風呂田さんから近況報告をするようにとのお話を頂き、改めて振り返ると上京して五〇年、故郷が次第に遠くなる反面、心の里帰りは一段と頻度を増している。庄原の風景が頻りと懐かしい。

今年二月で三五年勤めた博報堂を退職し、現在は子会社にいる。博報堂では各種イベントや地域開発関連の仕事を担当し、休みもあまり取れない毎日だったため、今は「風過ぎて竹に声なし」の感ひとしおである。

会社人間で取り立てて趣味らしいものはないが、最近では、犬とゴルフとサッカーに若干入れ込んでいる。犬はラブラドル・リトリバーの「アソリー」で、毎朝三〇分散歩のお供をさせられている。九歳になりどうも自分を犬と思っていない様子、山の神すら一目置く我が家の主的存在で孫より可愛い。ゴルフは健康維持を口実に月二回程度コースに出ているが、未だ枯れ切れずスコアよりもドライバーの距離を楽しむ程度のレベルである。サッカーはいま話題の「Jリーグ」創設に深く関わったこともあり、五月一五日の開幕セレモニーで涙を流した熱心なサポーターの一人である。

\*

花のお江戸で芝居している格致高校(庄原高校?)の同級生の中では、小山経(ミキモト・エンタープライズ社長)、宮永嘉隆(東京女子医大教授)、上林好之(ニュージエック社長)の各氏と日頃親しくさせて頂いている。

小山氏とは小学校以来五〇年の付き合いで正に竹馬の友、最近社長業の指導を頂いたりしながら酒を飲んだりゴルフをしたりしている。小学校からずっと一番で通した秀才で頭が上がない。宮永氏は東京で五指に入る眼科の名医、学会などで東奔西走し夜の付き合いすらままならない様子で、患者の人の噂では現代の赤髭先生とのことである。

上林氏は建設省を退官して五五歳で工学博士号をとり、この頃はオランダ語を独学でマスターして資料を読み漁り、日本の土木工学史を執筆している勉強家である。

いずれにせよ来年は皆還暦を迎える。故郷の山河を眺めながら、ゆっくりと語り合いたい。

回想・旅立ちの周辺

坂井 昌彦

(昭和二十四年卒)

私は旧制の最終回、中学五年から新制

高校三年に移行して、昭和二十四年に第一期生として「格致」を巣立った。

太平洋戦争が終わり焦げ臭い暗雲が吹き払われると、途方もない解放感で茫然自失したが、暫く時間がたって我に返ると抑え切れない嬉しさが湧き上がったものだ。食料難時代でいつも空きっ腹だったが、振り返ってみると自分の人生のなかで最も輝いていた時期ではなかったかと思っている。

先生がたも若かった。悪夢から醒めたような顔で素早く蘇った。すばらしい先生たちだった。藤田四郎先生の課外講座は忘れられない。自然発生的に四・五人の有志だけで放課後に「世界史」のレクチュアをお願いした。テキストは憶えていないが、原始共産制から封建社会、産業革命から資本主義、そして社会主義への足どり……、あのカビ臭い暗記科目だった「歴史」を、経済をふまえて眺め直すと、それが現実生活の地続きに実像として視界に浮かび上がり生き生きと迫ってきた。田舎の少年の無色透明な脳みそは激しく揺さぶられた。

谷口勝利先生の国文法も凄かった。上田万年、時枝誠記を引用しながら理路整然、まるで方程式を解くような鮮やかな切り口で、日本語を分析して有無を言わず納得させられた。後に大学で受けた国語の講義よりハイレベルだったと今でも思っている。学問というのは、こういうものをいうのかと思っただけのもの。東京から疎開していた数字の山本和夫

先生の印象も強烈だ、標準語や都会の風に「文化」の香りを嗅ぎとった。初めて出遇った微分・積分は数学が苦手だった私を開眼させ、「お前たちにこんな式が解けるのか?」と旧制高校の先輩を驚かせたりもした。

「民主主義」という言葉が当時の最も重要なキーワードで、これを振りかざせば、どんなことだって許される雰囲気だった。前途はまったく白紙で、どんなことだってできそうだった。そして、どんなことでもやってみてみたかった。親からも学校からもブレイキはかからなかったから、衝動的に無目的無秩序に手当たりしだいにぶつかった。深い計算があったわけではないが、ジャーナリズムの世界に漠然と照準を合わせたのもこの頃である。

生徒会活動、学校新聞、文芸、演劇、音楽、スポーツ(テニス)……、さらには他校と連帯して戦地からの未帰還父兄の引き揚げ促進運動までやった。夜は夜で時間を惜しんで友人の家で語り明かした。

自慢話めくが、中村哲二先生の指導で始めたクワルテットは、かのダークダックスより歴史は古しいし、女抜きでチェーホフの『桜の園』やストリンドベリの『父』などの赤毛物の芝居を臆面もなく金を取って公演して回ったりもした。当時の仲間、この毒にあたって映画監督、俳優、放送人にもなっている。

スポーツでは第二回国体(金沢)にて

ニスの県代表の座を勝ち取った。当時は軟式しかできなかったが、これが病みつきとなり全盛時代の早大硬式テニス部の門を叩いた。天才加茂・宮城などスパースターの中ではレギュラーの座は遙かかなたで挫折したが、おかげで細く長く故障もせずにつき、還暦過ぎた現在でもシニア大会の東京代表として奮戦している。

大学卒業後、どうにか出版界に入ることができて編集者としてスタートを切った。若僧でも名刺一枚で有名人が会ってくれたので、しだいに怖いもの知らずとなり、一誌の編集者ともなれば天下を取った気分だった。やがて少しばかり分別もつき、雑誌から百科などの仕事に移って専門家に接するようになると、己れの浅学非才をいやというほど思い知らされた。

建築の清家清先生などに企画のご指導を受けると、その学際的な広さと奥行きに目が眩んでしまう。テーマが建築であっても、周辺のいくつもの学問が有機的に組み立てられて構築されているため、建築工学はもちろん、医学・生理学・心理学・生化学・地学・経済学・歴史・美術……と、サイエンス、テクノロジー、アートなどきわめて広範囲の情報が要求される。清家先生のどの部分を押し試してみても予想を遙かに超えた答えが返ってくる。一人の人間がこれほどの情報を独占しているもよいのかと溜め息が出てくる。このように一流の学者、芸術家などに接すると身の程が分かって、小賢しさが少し

ずつ削り落とされていくことを実感したものである。「昭和」の終焉の年、定年を残して退社した。組織の中ではできない仕事がたくさんある。フリーランスのエディターとして、温めてきた企画を少しずつ手がけた。誰にも気兼ねなくマイペースで仕事を楽しめた。これで収入が理想的なら申し分ないのだが、そううまくはいかない。最近やった仕事としては『般若心経の世界』(写真集/中村元監修)の企画制作、明治の実業家・渋沢栄一の著作「青淵百話」(論語講義)「処世の大道」などの新構成・現代語訳で『人生の急所を誤るな』『孔子—人間、どこまで大きくなるか』『孔子—人間、一生の心得』(三笠書房)をプロデュースした(それぞれ竹内均・解説)。好評で続刊がさらに二冊進行中である。

記憶が薄れて……

横山 鶴雄

(昭和二五年卒)

東京格致会総会懇親会では、「旧制格致中学校校歌」を懐かしく合唱します。

『北なる吉備の高原に』

基さだめし幾歳の……』

いまは当時の校歌や応援歌が母校の学生歌として継承されている……。懐かし、今でもなげなく口ずさむ愛唱歌です。

ところで、愛唱しながらどうしても全曲が思い出せない、いや残念ながら記憶が薄らいで、一番しか歌えない一歌があるのです。

それは卒業式で披露され、歌ったつぎの歌です。

作詞 柄松 香先生  
作曲 中村 哲二先生

一、空より降りて 懇ろに

行方を照らす 師の諭し

遠の雲居に 棹ささん

遊子俯仰の おもいあり

「卒業式で披露……」と言いましたが、事前に練習があり、作詞者の柄松先生が

詩を朗読してくださいました。  
「……遊子俯仰のおもいあり」

おもわず全員拍手。この拍手には先生の名講義の感激がこめられていたのです。「近代詩」の時間に「藤村の『千曲川旅情のうた』」を吟詠し、講義され、中でも「遊子」について詳論されたのです。

「小諸なる古城のほとり  
雲白く遊子悲しむ……」

拍手に先生の笑顔を懐かしく思い出します。

まことに残念ですが、題名も二・三番も失念してしまいました。

学生歌に入っているでしょうか？

この歌をご記憶の方あるいはいろいろな情報をお持ちの方はどうぞご教示ください。

### 東京格致会会則案

第一条 (名称) 本会は東京格致会と称する。

第二条 (会員) 本会は東京都内及びその近在の格致学院、広島県格致中学校、広島県立格致中学校・広島県格致高等学校、広島県比婆西高等学校、広島県庄原高等学校、広島県庄原格致高等学校・広島県立庄原格致高等学校に在籍した者及び卒業生並びに旧教・職員で組織する。

第三条 (目的) 本会は会員相互の親睦を図り、母校との連絡を保ち、その発展に寄与することを目的とする。

第四条 (活動) 本会は前条の目的を達成するため次の活動を行う。

一、諸集会の開催  
二、母校発展に関する諸活動の援助  
三、会員名簿の発行  
四、その他必要と認められた事項

第五条 (会への加入方法) 第二条の在籍者、卒業生、旧教職員であつて本会の趣旨に賛同する者は、本会事務局へ加入の申し込みを行うことにより会員となる。

第六条 (総会) 本会は毎年一回定例総会を開催し、必要あるときは臨時総会を開催する。

第七条 (役員) 本会に次の役員を置く。

会長 一名  
副会長 若干名  
幹事 若干名  
監事 二名

一、幹事の互選により次の役職者を設けることができる。  
幹事長 一名  
副幹事長 一名  
事務局長 一名  
常任幹事 若干名

三、第一項の役員は定例総会において選任する。  
四、第一項の役員の任期は就任二年目の定例総会終了の時までとする。

ただし、前任者の補欠として選任された役員は前任者の任期による。

第八条 (役員会) 第四条に定める活動の計画立案、実施等のため、役員会を開くことができる。

二、役員会は全体会議、常任幹事会及び分科幹事会とする。

三、次の事項は、全体会議の決議事項とする。

(1) 予算・年度計画の決定  
(2) 年会費の決定  
(3) 一時借入金金の決定  
(4) その他重要事項

第九条 (顧問) 本会に顧問を置くことができる。顧問は会長の推薦による。

第一〇条 (基金) 本会の活動に賛同して活動基金として寄せられた金員をもって基金を設ける。

二、基金は、役員会(全体会議)の議を経ずに取り崩すことができない。  
三、基金は安全、確実に運用しなければならぬ。

第一一条 (会計年度) 本会の会計年度は四月一日より翌年三月末日迄とする。  
第一二条 (収入、支出) 本会の会計は会費、寄附金、基金運用収入、その他の収入を収入とし、第四条に定める活動に要する費用を支出とする。  
第一三條 (決算報告) 本会の決算は監事の監査を経て定例総会に報告し、その承認を受けるものとする。  
第一四條 (事務局) 本会は事務局を東京都内に置く。  
第一五條 (会則の変更) 会則の変更は総会の決議による。

### 編集後記

昨秋の役員総会に於て、これ迄の「東京格致会」の歩みを反省し、又将来に向けての「会」の有るべき姿に関して、意見を出して、確たる「会」にする為には、どう云う方法が最良であろうかと議論し、又「昭和五十七年より続いている年総会を絶さず」が第一前提条件である事は勿論のこと、例えば毎年一度の総会の案内状の費用も約拾参万円程度必要で、毎総会ごとに若干の赤字を計上し、役員で穴埋めしていたのが、これ迄の現状でした。他校の情報収集し参考にして、会員の皆様には是非御賛同いただき、年会費金一〇〇〇円を、お願いすることに決定致しました(振込用紙同封)。会報第一号も難産の末、できましたが、会員各氏の親交を深める場(会報)に発展させる為に各卒業年度ごとの原稿を期待して居りますので何卒御協力を御願ひ致します。

#### 「東京格致会会報」

平成五年九月二十日 発行

発行人 細川 謙三

編集人 横山 鶴雄 友広 寿

事務所 東京都千代田区神田淡路町二一三三四

酒井会計事務所内 電話〇三(三二五)八九九五

連絡所 東京都練馬区東大泉七一二二十八

友広 寿 電話〇三(三九三)四〇二五

振込口座

◎年会費 郵便振替 東京51712950

◎基金 東京格致会

第一勧業銀行八丁堀支店

口座番号(普通預金) 1068267

東京格致会 友広 寿